



政府統計

報道関係者 各位

令和5年8月22日

【照会先】

国立社会保障・人口問題研究所

社会保障応用分析研究部

部長 泉田 信行

室長 黒田有志弥

研究員 毛塚 和宏

代表電話 03-3595-2984 内線 4451, 4456

## 「2022年 生活と支え合いに関する調査」結果の概要を公表します ～人と人、社会とのつながりに課題、子どものいる世帯に教育費の負担感～

国立社会保障・人口問題研究所は、「2022年生活と支え合いに関する調査」（令和4（2022）年7月実施）の結果の概要を取りまとめました。

この調査は、人々の生活、家族関係と社会経済状態および相対的剥奪<sup>\*</sup>の実態、社会保障給付などの公的な給付と、社会ネットワークなどの私的な支援とが果たしている機能を把握することを目的に、5年に1度行われている調査です。調査対象者は、「令和4年国民生活基礎調査」で設定された5,530調査区から無作為に選ばれた全国300調査区に居住する者で、令和4（2022）年7月1日時点の事実について、世帯主が世帯票に、18歳以上の世帯員（世帯主を含む）が個人票に回答します。調査対象世帯数は16,719世帯で世帯票の有効票数8,473票（有効回収率50.7%）、個人票の配布票数は27,233票で有効票数15,929票（有効回収率58.5%）でした。

※添付資料「2022年 生活と支え合いに関する調査 結果の概要」1ページ注をご参照ください。

### 主な結果（「→」は別添「結果の概要」のページ番号）

#### ● 世帯の経済的な状況

- ・ 過去1年間に、必要な食料が買えなかった経験のある世帯は11.1%（前回調査13.6%）、衣服では12.1%（同15.0%）といずれも前回より減少。（→5, 6）
- ・ 未払い・滞納経験がある世帯についても全項目で前回より低下。（→7, 8）
- ・ ひとり親世帯では、食料が買えない経験をした割合が20.8%、衣料が18.8%と高い。（→12, 14）

#### ● 世帯の住まいの状況

- ・ 「病院、公共施設、買い物・生活施設が遠い」と回答した世帯は19.1%。「世帯の人数からすると手狭」と回答した世帯は、全世帯では9.6%であるが、子どものいる世帯では21.7%。（→100）

#### ● 子どもの教育費の負担

- ・ 18歳未満の子どもがいる世帯のうち、子どもの教育費の支出の負担が「とても重い／やや重い」と回答した世帯は全体の63.9%。（→90）

#### ● 人と人、社会とのつながりの状況

- ・ ふだんの会話頻度が「2週間に1回以下」の個人は3.0%（前回調査2.2%）。世帯タイプ別では、ひとり暮らしの高齢者の男性が15.0%（同14.8%）、女性が5.1%（同5.4%）。（→17, 21）
- ・ 孤独感を「常に・しばしば感じる」「時々感じる」個人の割合は全体で16.0%。（→26）
- ・ 調査期日前の一週間に「外出していない」者の割合は6.5%。高齢者でその割合は高く70歳代で7.4%、80歳以上で17.7%。また、18歳以上の障害者手帳保有者では16.6%。（→127）

#### ● 手助けの状況

- ・ 「手助けや支援を必要としている人が近所に住んでいるかは知らない」と回答した人は75.4%（男性76.2%、女性74.8%）。（→44, 45）

#### ● 人生の終わりに向けた活動の状況

- ・ 自身の死や死後の準備をしたり、考えたりしているとした個人（40歳以上）の割合は、自分の葬儀や墓のこと：46.5%、人生の最終段階で受けた医療：32.0%。そのうち、これらのことを家族や友人などと共有している個人の割合は、自分の葬儀や墓のこと：50.2%など、半数程度。（→157, 160）